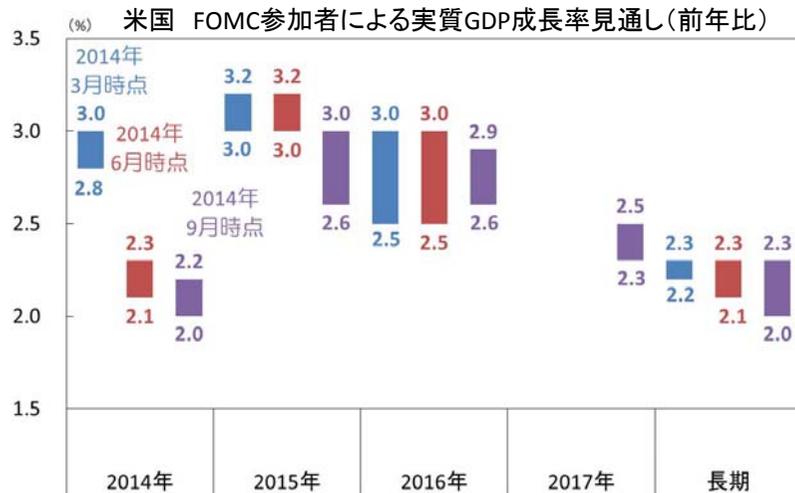


米FOMC – イエレンFRB議長の高い調整能力が光る

【図1】FOMCメンバーの成長率見通しは小幅に下方修正

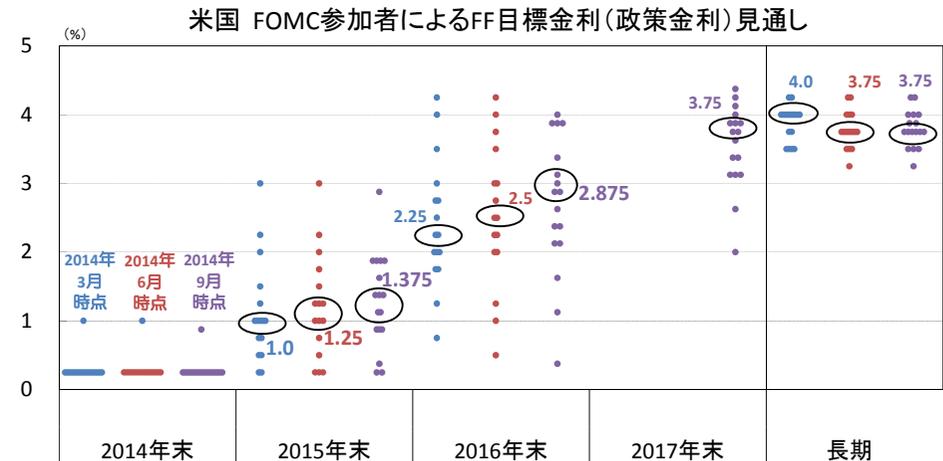


注) 上図各棒グラフの下辺、上辺がそれぞれレンジを示す。 出所) FRBより当社投資情報部作成

日本時間18日未明、米FOMC（連邦公開市場委員会）は、①政策金利の据え置き、②QE3（量的金融緩和第3弾）の10月以降の資産買入額（月間）を国債100億ドル、MBS（住宅ローン担保証券）50億ドルに減額、次回FOMCでQE3を終了する方針を明示しました。また、③声明文ではフォワードガイダンス（将来の金融政策指針）である「QE3終了後も相当の期間、現在の金融緩和策を維持する」との方針は変更しませんでした。さらに、④FOMCメンバーによる成長率見通し（図1）、政策金利予想（図2）の他、⑤将来の金融政策の出口戦略（量的金融緩和で膨らんだFRB（連邦準備理事会）のバランスシートをどうプロセスで正常化（縮小）させるか）の指針を示す等、今回のFOMCは盛りだくさんの内容となりました。

また記者会見に臨んだイエレンFRB議長は、足元の堅調な米経済を背景に早期利上げを主張するFOMCメンバーが増え難い政策運営を強いられる中、意見調整を十分行い今回の結論を纏め上げたという、自信に満ちた表情が印象的でした。

【図2】FOMCメンバーの政策金利見通しは上方修正



注) 上図はドットチャートと呼ばれ、FOMC参加者が予想する各年末時点の政策金利。2014年3月、及び6月の●印はFOMC参加者の予想する金利水準を、2014年9月時点の●印は各参加者が予想する政策金利ターゲットレンジの中央値の分布を示す。図中○は最頻値。出所) FRBより当社投資情報部作成

今回のFOMCの結果に対する市場の反応では、為替市場における米ドル高が最も顕著でした。特に米ドル円が2008年来となる1米ドル108円台の米ドル高円安に推移するなど、ほぼ米ドル全面高でした。こうした中、米国株式市場や債券市場の変動率もさほど高まらず、比較的落ち着いた動きとなった点は特徴的です。

今回のFOMCは、声明文でフォワードガイダンスに変更がなかったことからハト派（金融緩和策継続を支持）的とも言える一方（上述③）、FOMCメンバーの政策金利見通しは上方修正しておりタカ派（金融引締策を支持）的ともいえます。「ハト派とタカ派」、FOMC内における両者の意見に配慮しながらバランスを保ち、同時に昨日の米国債市場の反応が示すように、市場の見方も傾斜させないイエレン議長のコントロール能力の高さが光りました。こうした金融政策の高い調整能力は今後の市場変動率（ボラティリティ）低減に繋がるとみられます。株式等のリスク資産にとり、これはうれしい誤算と言えるかもしれません。（徳岡）

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はいくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問投資情報部の見解です。また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。